

地家室の石風呂

この石風呂は、薬師如来を本尊とする島四国八十八ヶ所第八十二番海雲山と谷川を挟んだ向かい側にあり、地家室の集落から遠く離れた北側高所の岩陰を利用している。天保12年（1841）頃からあり、第二次世界大戦中まで利用していた。現在、地区の有志によって復活している。

石風呂内部は天井を削って高くし、熱効率を考えて側面に石を積み上げ、床を円くして、さらに床面には石を敷き詰めている。

川沿いにある菖蒲を藻葉（海藻が浜に打ち上げられて乾燥したもの）に混ぜて、さらにセンバ（松の枝の枯れたもの）を加えて炊いていた。そして敷いた藻葉や菖蒲には、潮水をうっていたのである。浴者は組（石風呂講）をつくり、春蚕（春に飼う蚕、はるご）や麦刈り終了後炊いた。

石風呂は、島の特色ある地形や生産構造の中で普及し、発達してきた。さらに地区の共同管理が原則で、講的な横の結び付きを特色とする当地域の村落構造と歴史を伝える民俗文化財として史料的価値が高く貴重である。

《周防大島町文化財保護審議会会長 尾野榮明》



▲瀬戸の歴史民俗資料館にあった作品（作者不明）

昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性の方へ

風しん抗体検査・予防接種を受けましょう

問 健康増進課 健康づくり班
☎ 0820 (73) 5504

風しんの公的な予防接種を受ける機会がなく抗体保有率が低い世代の男性を対象に、令和4年3月31日までの3年間に限り、無料で風しんの抗体検査と予防接種を実施します。

令和元年度 対象者

○昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

今年度に対象となる方には、「風しん抗体検査・予防接種のご案内」と「クーポン券」を6月中にお送りしています。クーポン券を利用して、医療機関等で抗体検査を受け、検査の結果、十分な抗体がない方は予防接種を受けてください。

※昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれの男性の方で、今年度、抗体検査・予防接種を希望される方は、健康増進課健康づくり班へご連絡ください。

■風しんとは

- 感染者の咳やくしゃみ、会話など飛び散るしぶき（飛沫）を吸い込んで感染します。
- 小児は発熱、発疹、首や耳の後ろのリンパ節が腫れて、数日で治りますが、まれに高熱や脳炎になり入院することがあります。
- 成人は高熱・発疹の長期化や関節痛など重症化の可能性があります。

■先天性風しん症候群

妊娠初期の妊婦が感染すると、赤ちゃんが先天性心疾患・白内障・難聴を特徴とする先天性風しん症候群をもって生まれてくる可能性が高くなります。